

Sustainability Highlights

商船三井グループは、「3つの変革」に加えて、海運企業としての経営基盤強化につながる様々な取り組みを通じて、持続的に成長する「強しなやかな」企業を目指しています。

エミッションフリー

洋上風力発電設備設置船事業者へ出資

～FPSO・FSRU・シャトルタンカー・サブシー支援船に次ぐ海洋事業への展開～

洋上風力発電設備設置船を保有・運航するSeajacks International Limited社グループの株式の5%を取得しました。洋上風力発電は欧州を中心に大きく発展しつつあり、今後アジアへの拡大が期待されています。当社にとっては、海洋事業の領域拡大となるとともに、再生可能エネルギー領域への参画の第一歩となります。



Seajacks社が保有・運航する世界最大級の洋上風力発電設備設置船

環境対応

LNG燃料ケープサイズバルカーの共同研究を開始

～国際ルール発効に先行した環境対応への取り組み～

資源・エネルギー大手のRio Tinto、BHP Billiton、Woodside Energy、ノルウェー・ドイツ船級 (DNV GL)、中国船舶工業集団 (CSSC) 傘下の上海船舶研究設計院 (SDARI) と6社共同でLNG燃料ケープサイズバルカーの共同研究プロジェクト“GREEN CORRIDOR(緑の回廊)”を始めることで2017年1月に合意しました。その後、豪資源大手のFortescue Metals Groupや台湾船社の裕民航運も加わり、今後より一層厳しくなるNOx・SOx排出規制の国際条約発効に先行し、LNG燃料ケープサイズバルカーの技術面、経済性に関する研究を行っています。



調印式の様子

下線の用語については、目次ページの用語集をご参照ください。

人材育成

フィリピンに自営商船大学設立を決定

～世界最高水準の安全運航を担う、優秀な船員を継続的に育成～

2018年6月にフィリピンCavite州Dasmarinas市に自営の商船大学「MOL Magsaysay Maritime Academy Inc.」を開校します。商船三井グループと現地パートナーのMagsaysay Maritime Corporationとで毎年約300人の卒業生を雇用する計画で、4年間の高水準の訓練と基礎教育を通じて、即戦力となる優秀な船員を継続的に育成します。



大学完成予定図(仮)

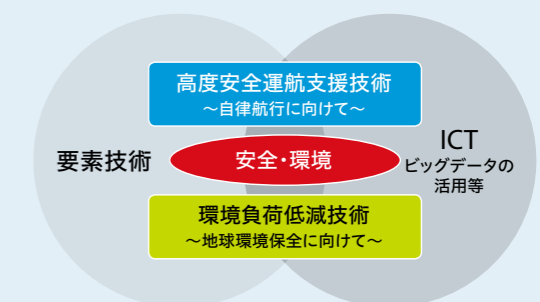
技術開発

「船舶維新NEXT

～MOL SMART SHIP PROJECT～」発足

～営業力の強化及び企業価値の向上につなげる～

本プロジェクトは、2009年に発表した「船舶維新プロジェクト」に次ぐ新たな技術開発プロジェクトとして、2016年11月に発足しました。当社の技術開発方針を、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様と共有することで、多様化するニーズと最新技術を広く収集します。それらを結び付けた技術開発を進めることで、“安全運航”・“環境負荷低減”技術を深化させ、営業力の強化及び企業価値の向上につなげます。



コンセプトイメージ

安全運航

「ICTを活用した船内環境見える化システムの構築」プロジェクト

～さらなる安全運航に向けたICTの積極的な利活用の推進～

上記の「船舶維新NEXT～MOL SMART SHIP PROJECT～」の一環として、本プロジェクトでは船上で発生する労災事故軽減、乗組員のワークロード低減、技能向上を目指しています。「ウェアラブルデバイスを用いた乗組員の健康・安全管理」、及び「ヘッドマウントディスプレイ、VR(仮

想現実)／AR(拡張現実) 技術を活用した乗組員教育、技能伝承、並びにメンテナンスや不具合時の遠隔支援システム」の開発により、安全運航の支援を行うとともに、乗組員の安全意識・技能の向上を図ります。